

2009年 12 月 10 日

カトリック京都司教区
共同宣教司牧ブロック
担当司祭・信徒のみなさま

小教区適正配置についての方針

司教 パウロ大塚喜直

1. 経緯

私は、今後の京都教区の将来を見据え、より一層の福音宣教の推進のため、その力を結集するために、「共同宣教司牧」の推進とともに、「小教区の適正配置」について、積極的に選択していく必要があると考え、本年の5月の司祭評議会に以下のことを諮問しました。

【諮問内容】

各地区・ブロック単位で、小教区の現行配置の適正の是非について、各地区のブロック担当司祭団が検討し、司教にその内容を答申報告する。その答申を受けて、適正配置の検討が必要とされる場合、司祭評議会ですべてを確認し、司教は該当「ブロック」を発表する。

【諮問の説明】

- (1) 京都教区では2001年から56の教会を14ブロックに編成して「共同宣教司牧」を推進してきました。共同宣教司牧は、単に司祭不足を解消する試みでも、小教区の統合でもなく、「教会同志が共に」「司祭同士が、また司祭と信徒・修道者が共に」、各自に与えられている神の恵みを生かして福音宣教する共同体に成長していける、小地区近隣共同体を形成するためです。そこには、教会は建物ではなく、信徒の共同体であり、私たち一人一人が教会であり、また私たち一人一人が福音宣教する主体であるという考えかたです。
- (2) しかし、この10年あまり「共同宣教司牧」の推進とは別に、信徒・司祭の高齢化・減少傾向が徐々に進行するなか、より福音宣教の力を結集して、今責任ある世代が、教会の「適正配置」に関する将来の展望を考える時がきていると思います。
- (3) そこで、現在の教会の数と配置を見直す基準が、今のところ、4つ考えられます。

①【適正規模】

福音宣教する共同体にして自律するために、一つの教区としての適正な人数があるのではないかと。一つの「ブロック」内に、小教区の信徒数の規模があまりにも小さい教会が点在すると、教会活動にとって、分散することのデメリットが大きいのではないかと。

②【建設問題】

戦後建設された現在の教会建物の維持管理の問題がある。耐久性や耐震の問題・司祭館の有無・教会活動の変化に伴う必要な部屋の変化。これらの課題を解決するために、大規模な修繕・改築、または建て替えを行う場合、財政的に一教会では不可能であり、これを機会に小教区適正配置によって、将来の福音宣教の力が発揮できるような、あらたに教会建設を積極的に選択していく道もある。

③【外国籍信徒】

外国籍信徒が多い地域では、かれらの小教区への参加を促進するとともに、かれらの司牧や活動拠点としての便宜を考える。

④【地域社会への宣教】

さらに、教会の地域や社会に福音をあかしするため、活動拠点として、幼稚園との関係、近隣の社会福祉施設・カトリック学校との関係も考慮にいれるべきである。

2. 小教区適正配置についての方針

8月31日に行われた司祭評議会で、各地区から答申を受けて検討した結果、以下の地域について適正配置の検討を始めることにしました。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 京都北部・宮津ブロックの6教会：（宮津；加悦；岩滝；丹後大宮；峰山；網野）② 京都北部・舞鶴ブロックの丹波三教会（福知山；報恩寺；綾部）③ 京都南部地区の全5ブロックの教会 |
|--|

他のブロックは、おおむね現行の小教区配置で、さらに「共同宣教司牧」を推進することによって、福音宣教する共同体づくりの充実を図る必要がある。

そこで、上記の3つの地域の信徒の皆様をお願いします。この度の小教区の適正配置についての方針にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

また、他の教会の信徒の皆様は、この度の教区適正配置の信徒の皆様と心を合わせて、これからの京都教区の福音宣教の推進のためにお祈りください。

以上。